

2005年8月25日  
国立大学法人 東京大学  
株式会社 三菱総合研究所

## 東京大学と三菱総合研究所「不連続社会の政策課題と研究テーマ設定手法」について共同研究を開始

～2050年の社会予測から、現代社会を俯瞰し、政策立案のための新たな手法・方法論の開発を目指す～

国立大学法人東京大学（総長：小宮山宏 以下東京大学）と、株式会社三菱総合研究所（取締役社長：谷野剛 東京都千代田区 以下三菱総研）は、2040年～2050年のスパンでの我が国の社会システムの予測と、予測結果に基づく各種政策課題を抽出することを目的として、「不連続社会の政策課題と研究テーマ設定手法」に関する共同研究を開始いたしました。

共同研究に際しては、東京大学の研究者及び三菱総研のプロジェクトチームにより、学際的・分野横断的・未来志向的な成果の創出を目的と致します。

現在、人口問題、経済、環境、資源エネルギー、技術革新など、多くの分野において、かつて無い変化が起こっています。現在そして将来にわたる、我が国そして国際社会は「未来が過去の延長線上には無い時代」「過去の経験が役に立たない時代」といった意味で、「不連続社会」へと変化していくことが予想されます。

「不連続社会」においては、科学・技術、少子高齢化、資源・エネルギー問題、環境問題、マクロ経済、国際的格差の拡大等、あらゆる分野で国家レベルあるいは地球レベルでの解決を必要とする様々な問題が発生することが必至です。これらの問題の多くは、それぞれが深刻な問題であることに加えて、問題相互が複雑に絡み合っているため、解決策はもとより、問題そのものの本質が見えにくくなることが考えられます。

もとより国家的課題あるいは国際的な課題といった複合的な問題は、個別の問題に対する解決策の寄せ集めや、短期的解決策の積み重ねという手法では長期的かつ全体としての最適解を導き出すことはきわめて困難です。

今回の共同研究では、2040年～2050年をターゲットとして、社会システム・科学技術を、現状にとらわれない発想、大学・シンクタンクとしての幅広い知見の蓄積、大学・シンクタンクとの共同研究という多様性に基づき予測し、「不連続社会」の予測結果から、現在の我が国・国際社会における課題・課題解決の方策を俯瞰し、広く社会に対して提言を行っていくことを目的としております。

東京大学は多様な分野で、最先端の研究を行っている総合大学であり、社会への

貢献の一つとして、積極的に社会へ情報発信をしてきました。また、三菱総合研究所は、創立以来 36 年間にわたり、数多くの政策研究や政策提言を行ってまいりました。

研究の遂行にあたり三菱総研内に各分野の専門家 7 名からなるプロジェクトチームを設置すると共に、文理のあらゆる分野をカバーし、4,000 名の研究者を擁する東京大学と共同研究を行うことで、より質の高い研究成果が得られるものと判断し、共同研究を実施することといたしました。研究期間は 2008 年 3 月までの 2 年 8 か月を予定しており、適宜、研究成果を広く社会に提言していく予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

国立大学法人 東京大学  
産学連携本部 太田  
電話 03 - 5841 - 1484  
kyogikai@ducr.u-tokyo.ac.jp

株式会社三菱総合研究所  
広報部 馬場・山村  
電話 03 - 3277 - 0003  
ccd-mg@mri.co.jp